

1 説明文 安藤寿康『なぜヒトは学ぶのか 教育を生物学的に考える』

問一

2行目「野生チンパンジーがする木の実割り行動の学習」の説明としてふさわしいものを問う問題です。7行目から12行目にかけて、子どものチンパンジーが木の実を割る行動にかかわっていることが述べられていますので、正解はイです。

問二

15行目「チンパンジーはいわゆる木の実割りの「手順」を模倣しているようには見えません。」とありますが、ではチンパンジーは木の実割りができるようになるために、どのような学習をするのかを説明する問題です。36行目からの形式段落がチンパンジーの学習の説明ですので、このあたりに注目します。特に38行目「とてもほかの個体がやっていることを真似しているとは言えません。」が傍線2とほぼ同様の内容ですので、このあとの「個体学習、つまり自分自身の試行錯誤や洞察によってなしているようです。」を利用します。

問三

35行目「人間はイミテーションをしているのです。」とあることに関連した二種類の実験で、幼児はどのようなことをしたかを説明する問題です。二種類の実験のうち、最初の実験の説明は44行目から58行目まで、2番目の実験は59行目から70行目までで、それぞれをまとめます。具体的には、44行目から48行目のことばを用いて「幼児の前でランプを頭でつけて見せると、幼児もまねをして頭でつける」とまとめます。次に、60行目から62行目の内容を「両手を縛って同じことを見せると、幼児は手でランプをつける」とまとめます。なお、設問に合わせて、答案の文末は「～こと。」にする必要があります。

問四

56行目「理由」とほぼ同じ意味のひらがな3字の語を抜き出す問題です。42行目にある「ゆえん」が答えです。

問五

91行目「日本人はなぜ勤勉で礼儀正しいと外国人から言われるのでしょうか」ということの原因を問う問題です。傍線部の直後に「勤勉さや礼儀作法を家庭や学校で意図的にしつけられることももちろんその理由でしょうが」とありますので、「家庭や学校でしつけられる」というのが、理由の一部としてあげられます。さらに、95行目「ふだん自分が使っている駅やお店で働いている人たちが、総じて勤勉で礼儀正しくふるまっているのを、意識するとしないとにかかわらず観察させられており、その結果おのずと模倣してしまっているからだと考えられます。」とありますので、「勤勉で礼儀正しくふるまっている人を観察し模倣しているから」というようにまとめます。なお、設問に合わせて文末は「～から。」とする必要があります。

問六

空欄AからDに適切なことばを入れる問題です。Aには次の行動につながるア「そして」、Bには逆のことがらを導くウ「しかし」、Cには具体例が続くエ「たとえば」、Dには異なる見方を続けるイ「では」

が入ります。

問七

漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。

問八

本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。19行目に「仲間たちの行動の一部分は模倣しているようですが、」とあり、また42行目に「意図を理解し手順まで忠実に真似る「猿真似」ができるのは、実は人間だけなのです。」とありますので、このことが書かれているアが正解です。他の選択肢を見ますと、イでは、後半に「人間が教えても割ることはできない」とありますが、この文章ではそもそも人間が教えることへの言及はありません。ウでは、後半の「チンパンジーを見習わなければならない」という部分が本文の内容に合いません。エでは、後半の「その後、学習するにつれて、その能力は落ちていく」というところが本文にはありません。

2 物語文 江國香織『僕はジャングルに住みたい』

問一

24行目「あいつも見ていた」に関して、「あいつ」は誰を指すか、ということと、このような呼び方をした理由を問う問題です。50行目に「せんせーっ、野村さんが好き嫌いします」とあるので、「あいつ」は「野村さん」です。今の先生への告げ口のように、主人公の恭介は野村さんに対して、表面的にはいじわるなふるまいをしています。77行目「となりのほら穴にあいつが住んでいて、僕があいつの分も狩りをしてやる。僕とあいつのほかには人間は誰もいなくて」とあるように、恭介はジャングルで野村さんと二人だけで生活する空想をしており、内心では野村さんは気になる存在、好意を持っている相手といえます。つまり、恭介が野村さんをことさらに「あいつ」と呼ぶのは、「野村さんは恭介にとって本当は好意を持っている特別な存在でありながら、素直にみとめることができないから」ということとなります。なお、設問に合わせて文末は「～から。」とする必要があります。

問二

40行目「やった。とん汁だ」と思った理由を問う問題です。問一で見たように、恭介は野村さんに好意を持ちつつも素直になれず「あいつ」と呼んでいます。ここでも、給食当番の仕事を利用して野村さんに対して表面的には悪意のある行動をしています。したがって、「給食当番として野村さんが嫌いなとん汁をつぐ仕事をするので彼女に意地悪をすることができると思ったから。」といったことが答えとなります。なお、ここも設問に合わせて文末は「～から。」とする必要があります。

問三

54行目「お母さんが、恭介のちゃわんに、くたくたに煮えたすきやきのにんじんを入れた。」ということが、できごとの順序で見た場合、どの箇所のと後に続いているのかを問う問題です。この場面の記述は、上段1行目に「夕食のあいだじゅう」とあるように、夕食中のことです。その夕食のなかで、11行目から下段53行目まで、その日の学校であったできごとや恭介の気持ちが入り込んでいます。したがって、出来事の順序でいえば、傍線部の直前の出来事は、上段10行目「恭介はぶっちょうづらのまま、しらたきを口いっぱいほおぼった。」です。句点を含めて5字で抜き出しますので、「おぼった。」が正解です。

問四

67 行目「青い表紙のサイン帖」を説明する問題です。140 行目「机のひきだしにしまってある自分のサイン帖のことが、恭介の頭をかすめた。あいつの下駄箱に入れておいたら、あいつは何て書いてくれるだろう。女の子だから、やっぱり思い出とか、お別れとか、書くんだろうか。」とありますので、答えとしては「恭介が小学校を卒業する前に、クラスの友だちに思い出やお別れの言葉を書いてもらうため」といった内容を書くこととなります。設問に合わせて文末は「～ため。」とする必要があります。

問五

81 行目「恭介が大島先生に呼びだされたのは、次の日の放課後だった。」という場面で、恭介を最もいらだたせたものを問う問題です。3 行目「もうすぐ、卒業式ね」5 行目「そうしたら、恭介も中学生か」という両親のことばに対して、恭介は「まだだよ。まだ二月だから小学生だよ」と否定します。また 73 行目「クラスみんなもばらばらになってしまう。あいつなんか私立にいつってしまうから、なおさら会えない。あーあ。」とあるように、小学校を卒業したあとの生活に希望を持ってないことがわかります。つまり、恭介は卒業したくない、卒業のことは考えたくないという心情でいるわけです。そういうなかで、大島先生が「もうじき卒業だから」とあやまったことが最もいらだたせたと考えられます。したがって、正解はエです。

問六

慣用句の問題です。一がウ、二がイ、三がエ、四がオ、五がアです。

問七

空欄[A]～[D]に適切な擬声語または擬態語を入れる問題です。Aにはページをめくるエ「ぱらぱらと」、Bにはちょっとした動揺を示すア「びくんと」、Cにはすのこをける音のウ「がたがたと」、Dには物を放るイ「ぼんと」が入ります。

問八

本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。恭介は小学校を卒業したくない気持ちでいます。73行目「あいつなんか私立にいつってしまうから、なおさら会えない。あーあ。ジャングルに住みたい。」とあるように、「あいつ」すなわち野村さんと会えなくなってしまうことをつらく思っています。したがってそのことが書かれているエが正解です。他の選択肢を見ますと、アは前半に「恭介は卒業にさみしさを感じていなかったの」とあるのが誤りです。イでは最後に「恭介を担任のことを全く信用していなかった」というのが極端すぎ、すこし説明がずれています。ウでは、「いっそのこと誰一人住んでいないジャングルに住んだ方がまだましだと思っていた」とあるのが、77行目「となりのほら穴にあいつが住んでいて、僕があいつの分も狩りをしてやる」とある空想と異なります。

以上